

達成度		A：達成できた（8割以上）		B：ほぼ達成できた（6～7割）		C：あまり達成できなかった（4～5割）		D：達成できなかった（3割以下）		
No	項目	重点目標	自己評価		達成状況	達成度	成果○と課題●		学校関係者評価 意見・要望・評価	次年度の課題
			具体的方策・指標・基準等	達成状況			達成度	成果○と課題●		
1	学校経営	①コミュニケーションを大切にした学校経営を推進するとともに、生徒理解を基盤に据えた教育活動を展開する。	○面接週間を設定し、生徒とのコミュニケーションを図り、生徒理解を深める。（教務、1年、2年、3年）	・1・2年は2回、3年は1回の面接を実施した。（教務） ・面接週間を中心に適宜個別面接を行った。（1年、3年） ・担任と面接のほかに教科担当者との面接の機会を設け、それをきっかけに生活面とともに学習面での相談をする姿が見られるようになった。（2年）	A	○面接を通じ、生徒の学習・生活状況などを把握し生徒理解に努め、クラス担任より助言を行った。（教務） ○相談する窓口が複数になり、相談できる内容も増やすことができた。（2年）	●現在、山形県への外国人訪問客の半数以上が台湾からであり、交流は非常に有意義。現地は中国語圏だが大学生との会話は英語が中心となるため、実効的な英語教育の場として今後も継続してほしい。			
		②グローバル化やデジタル社会の進展など社会の変化に伴う学校の体制整備と対応の万全を図る。	○他教科の実践や一人1台端末を活用した授業を参観することで教員のICT活用能力を高める。（教務） ○2年次の研修旅行の行き先が海外（台湾）となるため、必要なサポートをする。（総合企画） ○DXハイスクールの計画に基づき、各デバイスの有益な活用の仕方を検証していく。（総合企画）	・ICT機器の各授業での積極的な活用や各種アンケート集計等での利用を行った。（教務） ・今年度も台湾への研修旅行（2回目）を成功裏に終えることができた。（総合企画） ・各デバイスのペースとなるZerollab（協調整学習用教室）について、L1教室を改修することで整備できた。（総合企画）	B	○ICT機器の積極的な活用が増えている。（教務） ●台湾留学センターとの連携をより密にしていく。（総合企画） ●各機材の具体的な活用方法を理科だけでなく普通科にも広げていく。（総合企画）				
		③「校庭」、「教育目標」及び「スクール・ポリシー」に基づく教育を実践し生徒個々の「南高力」を育成するとともに、PTAや後援会、同窓会等との連携を図りながら学校の活性化を図る。	○保護者と協同してPTA広報紙を発行したり、保護者のPTA行事への積極的な参加を促すなど、保護者との連携を推進する。（総務） ○同窓会事務局との情報共有に努める。（総務） ○スクール・ポリシーにも組み込まれている9つの「南高力」について検証し、学校教育における活動と評価につながるよう促す。（総合企画）	・PTA広報誌「南高だより」は、PTAの担当者と連携を取り合い編集会議も行うなど予定通り2回発行できた。PTA行事も予定通り行われ、総会の出席率も昨年度は6割程度だったが今年度は7割を超え保護者との連携を図ることができた。（総務） ・南高力を従来の9つから5つにまとめ、より広く理解してもらいやすく改定することができた。（総合企画）	B	●PTA活動の機会が減少していたり働き方改革もあり、今後のPTA活動の在り方について検討していく必要がある。（総務） ●新しい南高力を広報することにより広く理解してもらおう。（総合企画）				
		④生徒の「ウェルビーイング」が高まる「学び」や「指導」のあり方を研究していくとともに、教師の「ウェルビーイング」に繋がる「働き方改革」の取組みを推進していく。	○校務支援システムを活用し、教員の校務軽減に努める。（教務）	・e教務を活用し、出欠の管理・成績処理、諸証明書作成等を行った。（教務）	B	○●作業の効率化につなげることができた部分と正確さが求められるため、データの点検等が必要となることもありスムーズにいかない部分があった。（教務）				
2	学習指導	⑤主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業第一主義及びタイムマネジメントを徹底させながら、主体的に学習に取り組む態度を育成し、平日は1日150分、休日1日240分以上の家庭学習時間を習慣化するよう指導する。（1年）	○授業第一主義を教員・生徒双方で徹底させ、学習時間調査や面談を通してタイムマネジメントや自己管理能力を育成する。平日150分、休日は270分の勉強時間を確保させる。（2年） ○授業第一主義のもと、タイムマネジメントを徹底させながら、予習、復習、課題に取り組ませ、部活動引退後は、平日270分、休日2時間以上の家庭学習時間を習慣化させる。（3年） ○主体的、対話的で深い学びとなる理数探究（課題研究）を通して思考力・判断力を、また発表を通して表現力を養成する。（理数科）	・授業見学週間を実施した。（教務） ・家庭学習時間の確保が不十分であり、課題の提出率が良くない、集会等で時間を意識した行動ができるよう指導した。（1年） ・学習時間調査、模擬試験の結果を返す際の振り返りなどで実施した。（2年） ・部活動、学校行事を最後までやり切り全体的に9月以降から学習に切り替えることができた。図書館や第2多目的教室で主体的学習の生徒が見られた。（3年） ・予習や課題への取り組みは概ね良かった。授業に臨む姿勢も良好であった。（理数科）	B	●先生方一人一人の授業改善や教科を超えた学習の情報交換につながるようになっていった。（教務） ●主体的・自律的に行動しようとする姿勢は見えてきたが、学習時間の確保までは繋がっていない。（1年） ●高い勉強目標をもつ生徒たちが出てきて、残って勉強する姿が見られるようになってきた。このことが他の生徒にとっても良い刺激となって高まりを見せるようになればと考えている。（2年） ●部活動の完全燃焼と南高生の成功で、受験勉強への切り替えは全体としてははずみずまできていたのではないかと思う。（3年） ○学習習慣が身に付き、連絡目標達成に向け努力がみられる生徒が増えた。（理数科） ●予習、復習の家庭学習時間をしっかり確保させ基礎の定着を徹底する。（理数科）	・プリント類が家庭に届かないことも多いため、既存の連絡アプリ（さくら連絡網）やSNS等より積極的に活用し、保護者に対して学校の実施をより積極的に発信してほしい。（理数科）			
		⑥デジタル時代の進展を踏まえ、ICTを活用し「個別最適化学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒の可能性を引き出す指導を研究する。	○課題探究の実践やICT機器を活用し、新たに求められる資質・能力の育成を図るとともに、個別最適化学びや協働的な学びの実現に向けて、授業改善を行う。（教務） ○生徒1人1台端末の個別最適化学び・協働的な学びに関わる利活用をさらに推進していく。（総合企画） ○生徒が生成AIを活用できるように、ガイドラインなど環境を整備し、深い学びにつなげていく。（総合企画） ○学習時間調査や成績分析を行い、教科担任、部顧問、家庭との連携を密にし、面談等を通して生活実態の把握に努め、効果的な学習について指導を行う。（1年） ○授業のみならず、ICTを使って調査や分析を行うほか、研修旅行のプランニングや総合的な探究の時間に生成AIなどを使用し、使う切り口を増やしながら個々の学びに反映させていく。（2年） ○デジタル人材育成のため、DX加速推進事業を活用して創造的な学びや探究活動の教育環境整備を進める。（理数科）	・各教科の特性に応じ、様々な場面でICT機器を活用した授業が行われた。（教務） ・生徒アカウントでもGeminiを使用できるようにガイドラインも策定し、今年度中に整備することができた。（総合企画） ・探究時の時間の課題の設定や調べの方法、研修旅行の班ごとのプランニングの踏まえ生成AIの使用を促し、経験値を作った。（2年） ・授業でChromebookを使用し調べ学習やスライド発表などICTを活用した。（理数科） ・DXハイスクール推進事業を活用し、DSワークショップ、DXワークショップを実施した。（理数科） ・デジタルセンサーを使用した実験にも取り組み、活用法を研究した。（理数科）	B	●年度もさらなる取り組みが期待される。（教務） ○従来の使い方に加えて、生成AIが活用し、より深い学びにつなげていくことができた。（総合企画） ○担任面談に加えて主任・副主任面談および教科カウンセリングを実施し学習へ意識を高めた。（1年） ●経験のある生徒とない生徒の間に差が出てきた。また、使うべき場面、使っていない場面など、こちらも研修の必要性がある。手探りの中の指導が続いている。（2年） ○研究過程、成果発表を通じ、思考力・判断力・表現力を高めることができた。研究発表を重ねることにスライドの工夫や質疑応答の活性化を感じることができた。（理数科） ○DXに対する興味関心を高められた。またVRゴーグルやデジタル顕微鏡、デジタルセンサーなどに触れ、その活用の基礎を学んだ。（理数科）	・授業やワークショップで学んだ内容を自分の課題研究に活かせるよう、DX教育環境を整える。（理数科）			
		⑦文章や情報を正確に読み解く力を養うとともに主体的、対話的で深い学びを通した思考力・判断力・表現力を養成する。さらに、課題を発見し解決するための探究する力を育成する。	○研究授業や授業見学週間などを通じ、授業改善と指導法の研究を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びとなる指導の在り方を研究していく。（教務） ○校内読書感想文コンクールや総合探究の時間にピリオドバトルを行い、読書量の増加と表現力の向上を図る。（教務） ○総合的な探究の時間の運営をサポートしながらセミナーや発表活動の機会を設定する。（総合企画） ○収集した情報を比較検討しながら読み解く力を養成し、探究的な学びに対する主体的・対話的な学びを継続的に促しながら「南高力」を育成する。（総合企画） ○大学入学共通テストを見据えて、文章や情報を正確に読み解く力を高め、国語・数学の記述力および英語の四技能を意識した授業を実施する。（1年） ○大学入学共通テストを見据え、さまざまな形の文章を早く、正確に読む力を育成するため、朝学習、総合的な探究の時間をはじめとするさまざまな学びの活動の中に入れていく。（2年） ○大学入学共通テストを見据えて文章や情報を正確に速く読み解く力を養う。そのために主体的・自律的な学習に励む態度を育成する。（3年） ○「授業第一主義」の趣旨である予習を前提とした深い問いのある授業展開を実践し、授業の中で考え学ぶ姿勢を確立させる。（理数科）	・他教科も含めて見学できるよう授業や授業見学週間を実施した。（教務） ・図書館だより等の広報活動・学級文庫の設置や読書感想文コンクール、ピリオドバトルを行い、読書への動機づけを行った。（教務） ・校内での探究活動及び発表については一人一人の取り組み質も上がってきている。（総合企画） ・大学入試を意識した記述式や四技能を取り入れた授業を実施した。（1年） ・文章を読む機会をさまざまな活動の中で設けてきた。来年度も継続していきたい。その速度や読書の向上に努めていきたい。（2年） ・3年になり大学受験を意識して主体的に学習に取り組み始めた。2学期からは共通テスト対策を行い文章や情報を速く正確に理解できるように取り組んでいく。（3年） ・2年生理数探究中間発表会や校内最終発表会を実施し、レポートのまとめやスライド発表を行った。また山形県探究学習課題研究発表会に参加し、他校生徒や専門の先生方との交流ができた。（理数科）	B	●研究授業や授業見学を積極的に活用できる体制をとっていく。（教務） ○読書感想文・感想画ともに校外コンクールで複数の県優秀以上の入賞があった。読書量の増加について様々な試みを行ったが、貸出冊数は昨年並みとなった。普段の図書館の利用については多数利用されている。（教務） ●今年度は上位コンテストにチャレンジすることができなかった。（総合企画） ○模擬試験で成果が表れてきている。（1年） ●図書館利用者は増加しているが、本の貸し出しまでは至っていない。本の持つ豊かな世界に触れる機会を今後も継続して増やしていく必要がある。（2年） ○科学レポートのまとめ方や身につけたい。発表の工夫や対話的で研究内容を深化させる質疑応答ができた。（理数科） ●実験を通して仲間と議論し合い、協力して研究成果をまとめることができた。（理数科） ●疑問不足や回答の工夫など、読んで理解してもらえないレポートにするには改善の余地がある。（理数科）	・研究内容の充実を図り、校外での発表会に参加できるようなサポートする。（理数科） ・一部の課題を提出しない生徒、自己中心的な学習になっている生徒への声かけや指導を行う。（3年）			
		⑧「総合的な探究の時間」及び「理数探究」の課題探究実践、観点別評価についての研究をさらに深める。また、個々の教師が身に付けた知識・技能に加え、求められる知識・技能が身につくことを意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続ける姿勢を促す。	○各教科で前年度の評価結果を検証し、観点別評価が、生徒の学習改善及び教師の指導改善につながるようしていく。（教務） ○「総合的な探究の時間」の運営やサポートのあり方について教員が学ぶ機会についての情報を集めつつ、年度末に校内研修会を設ける。（総合企画） ○1年次の「総合的な探究の時間」に、次年度に向けた理数探究入門講座を実施し、探究の基礎を指導する方法を確立する。またデータ収集や分析などにデジタル測定機器やICTを活用させられるよう指導研究を行う。（理数科） ○筑波研究学園都市研修を1年生を対象に実施し、先端科学技術に触れさせる。（理数科）	・各教科でこれまで実施した観点別評価について情報を共有し、より良い評価になるよう努めた。（教務） ・今後は生成AIが探究活動において果たす役割も大きいと考えられるが、そこに向けて教員向けのセミナーを実施計画することができた（現時点では未実施）。（総合企画） ・理数科1年生は総合的な探究の時間を利用して、理数探究準備講座を2回実施した。（理数科） ・理数科1年生を対象に筑波研究学園都市研修を8月に実施した。（理数科）	B	●生徒の成長につながるよう今後も観点別評価の理解と実施の工夫を継続していく。（教務） ○継続的なサポートが不可欠である。（総合企画） ○課題研究の進め方や実験の基礎を学んだ。（理数科） ○先端科学技術に触れさせ興味関心を高めることができた。実物を見、生で説明を聞くことは生徒に大きな感動を与えた。これがきっかけで自然科学への関心が高まった生徒が多い。（理数科） ●研究テーマ設定にあたり、解決すべき課題を見出す力が不十分である。（理数科） ●研究活動の流れや実験計画、リソースの活用など丁寧に指導していく必要がある。（理数科）	・1年次の総合的な探究の時間を活用し探究活動のスキルアップを目指す。（理数科）			

3	<p>進路指導</p>	<p>⑥確かな学力の育成を基盤としながら、情報化・グローバル化など変化する時代に求められる資質・能力を育成する。</p>	<p>○変化する激しい時代における社会課題を総合的な探究の時間を通して考えさせながら、生徒1人1人目標によるGoogle Workspace活用のスキルを高めて、グローバル化についてより深い思考を促す。(総合企画) ○総合的な探究の時間や、あらゆる教育活動を通して、次のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(1年) ○総合的な探究の時間や、教科指導の中で、多様な学びの活動を取り入れ、調べ学習、情報の選別、発表、対話を通して、変化に対応し、他者とともに学ぶリーダーシップを涵養する。(2年) ○山形大学理学部との連携協力をお願いし、実験講座を1・2年生対象に実施する。また、1・2年生を対象に、研究室訪問、施設見学会を実施する。(理数科)</p>	<p>・一人ひとりの活用については、主に探究活動を通じて活用することは当然のことになっており、結果として生徒たちのICTの活用スキルは非常に高いといっている。グローバル化については意識の高まりは、1年生のグローバルスタディプログラムへの高い参加率に表れている。(総合) ・総合的な探究の時間の進捗と、調べ学習・アンケートや調査、インタビューなどさまざまな場面で協働的な活動を実施し、切磋琢磨しながらスキルアップを図ることができた。(2年) ・山形大学理学部での高大連携実験講座を理数科1年生は3回(物理・化学・生物分野)、理数科2年生は2回(化学・物理/生物)実施した。(理数)</p>	<p>●情報モラル教育から一歩進んで、これからのデジタル時代を生きる生徒にデジタル・リテラシーの観点からの意識づけが必要である。(総合) ○GS Pに111人参加し、グローバルな視点と考え方を体験して頂く予定。(1年) ○Chromebookの使い方に慣れをとった生徒も一連のタスクや調べものが一通りできるようになり、現代のリーダーとしてのスキルを身につけた。今後、使い方の幅を広げていきたい。(2年) ○実施することの意義や条件設定の重要性など課題研究につながるポイントを学ばせることができた。(理数)</p>	<p>・進路情報について早めにおかると、保護者の意識づけになり、保護者も能動的に情報を集められる。特に第一子の保護者は入試制度が複雑で不安が強い。低学年次(2年生など)からの面談や情報提供を早めの実施してほしい。 ・教員志望の生徒が減少傾向にある中、本校から多くの質の高い教員を輩出できるよう、教育の魅力を伝える活動を継続してほしい。</p>
3	<p>進路指導</p>	<p>⑦広い視野と高い志を育成し、国公立大学や難関大学への挑戦意欲を喚起しながら、生徒一人一人の自己実現に向けたキャリア教育を推進する。</p>	<p>○親々の進路目標に沿った指導を行い、国公立大合格160名以上、難関大学・医学部医科合格20名以上を目指す。(進路) ○大学入学共通テストにおいては、1000点満点中660点以上の平均点獲得を目指す。(進路) ○「1年職業講話」「各学年進路講演会」などを実施し、意識の高揚に努める。(進路) ○希望者に対し「医師体験」「看護師体験」「理学療法士・作業療法士体験」などに積極的に参加させる。(進路) ○総合的な探究の時間において「社会と自分の関わり」について考えを深めさせることで、将来の進路やキャリアについて自分の興味関心や特性を活かしながら幅広く考えられるようにする。(総合企画) ○オープンキャンパスへの参加や進路研究などにより生徒のキャリアを育成し、将来どのように社会に貢献したいか考えさせる。(1年) ○二者面談、オープンキャンパスへの参加、限でのキャリア学習を通して、高い進路目標をもとに、上位者指導を通して強く挑戦し続ける学習リーダーを核とした集団を作る。(2年) ○進路課程による大学入試に対応できるようにするために、総合的な探究の時間等を活用し、生徒の進路意識を高めます。(3年) ○外部機関より学習意欲を分析し生徒の志望や学力を確認し、個別面談や三者面談を実施して、志望校合格に向けた学習計画をしっかりと立てさせる。(3年) ○大学や研究機関の研究内容を積極的に紹介したり、見学研修などを実施することで、高い志をもって社会の課題や自然科学の探究に挑む態度を養成する。(理数科)</p>	<p>・大学入学共通テスト等への研究会等へ参加し情報の収集に努めた。また東北・山形両大学の「県大学入試研究会」に積極的に参加し、情報を共有した。(進路) ・大学入学共通テストにおいて、平均607.9点と目標値には届かなかったが、県進路指導センターでは2位と躍進した。(進路) ・県教委主催「医進塾」に2年12名、1・2年、「小学校教員セミナー」に2年2名、1年2名、「難関大セミナー」に2年31名、1年21名が参加した。(進路) ・「社会と自分の関わり」の意識づけについては、本校生徒にとってはまだまだ改善していかなければならない部分であると認識している。(総合) ・高い意識をもった学習リーダーの集団の集まりを認めることで、自覚をもって学習にある生徒の増加が見られた(2年) ・総合的な探究の時間を通して、将来に活かせる情報リテラシーを身につけさせることができた。(3年) ・模試ごとに目標を設定させてから試験に取り組ませた。(3年) ・理数科1・2年生を対象に「県工業技術センター研修」、「山形大学理学部訪問」を実施した。(理数)</p>	<p>○令和8年度大学入学共通テスト「情報」の3年次での対策が確立し、適切に対応できた。(進路) ○昨年度高難化を受けたものの、予想よりも難化しなかったため、来年度の共通テスト難化予想に対する対策の準備が必要である。(進路) ○地元大学の魅力について、引き続き発信していく必要がある。(進路) ○前期・後期両校生入選及び入選率により、生徒登校日数が限られ、大学入試目前での指導に支障をきたしている。同様に1・2年生の学習にも支障をきたしている。(進路) ●探究活動においても、自分の問題意識だけでなく、社会とそれがどうかかわっているのか、強く意識させる指導が必要である。(総合) ○市工務店取締役社長の職業講話やGW中の職業適性診断により職業について考えることができた。(1年) ○高い進路目標を大切に持ち続けている。夏には163名の生徒がオープンキャンパスに参加し、保護者の方々も生徒と足並みをそろえて進路実現に向かう姿勢が醸成できた。(2年) ●模試後の復習の徹底。復習の仕方を明示したり、期限を示したりして復習を徹底させる対策。(3年) ○地元の研究機関が地元産業の発展にどのように貢献しているか、また理学部の研究分野の特徴や面白さを感じることができた。(理数)</p>	<p>・大学のオープンキャンパスへの参加は重要だと感じている。たとえ参加できなくても、オンライン等へ参加し情報を共有できる。</p>
3	<p>進路指導</p>	<p>⑧変化する大学入試制度に対するため、大学等と連携を充実し、その情報を学校全体で共有しながら生徒個々の進路実現に向けた指導を行う。</p>	<p>○個別面談を通して生徒一人ひとりの進路目標や適性を踏まえ、適切な文系・理系のコース選択の指導を行う。(1年) ○変化し多様化する大学入試の対応にむけ、進路課と連携を強め、学年団からも外での研修会等・進路課に参加し、新しい情報を共有する環境づくりに努める。(2年) ○非常講習や常習学習会合を実施し、志望校合格に向けた礎石な学力を確立し、最後まで粘り強く努力する態度を育成する。(3年) ○国公立大160名以上、難関大学20名以上を目指して、生徒一人一人の自己実現に向けた適切な進路指導を行う。(3年)</p>	<p>・個別面談により慎重に文理選択を行った。担任団全員で適性や進路希望に合わせているかを確認した。(1年) ・学年団として2年団が、また外部で研修を重ね、進路課の協力を得ながら情報取組も行った。(2年) ・常習学習会合には70名が参加し集中して学習を取り組み、受験勉強への良い切り替えとなった。(3年)</p>	<p>●目まぐるしく変化する大学と、入試の方法を絶えずチェックし、漏れや無知を理由に生徒に不利な状況にならないよう、気を付けていきたい。(2年) ●難関大前期の希望者は当初に比べ根気強く継続できない者がおり、次第に提出が滞りてしまった。(3年) ○担任の声かけにより、非常講習・夏期講習とも欠席が目立つ生徒もいたが概ね集団として受験勉強に向かうことができた。(3年)</p>	<p>●目まぐるしく変化する大学と、入試の方法を絶えずチェックし、漏れや無知を理由に生徒に不利な状況にならないよう、気を付けていきたい。(2年) ●難関大前期の希望者は当初に比べ根気強く継続できない者がおり、次第に提出が滞りてしまった。(3年) ○担任の声かけにより、非常講習・夏期講習とも欠席が目立つ生徒もいたが概ね集団として受験勉強に向かうことができた。(3年)</p>
4	<p>生徒指導</p>	<p>⑨自治的な生徒会活動と活発な部活動を奨励しながら「共通性」を醸成しながら自他を尊重しあう集団づくりを行う。</p>	<p>○本校部活動方針に基づき、各種大会での上位入賞・全国大会出場(30名以上)を目指す。備き方改革プランを踏まえ、合理的、効果的、効率的な活動を追求し、学習との調和に努める。(生徒) ○自主的、積極的な生徒会活動を実践させ、互いに尊重、協力する姿勢と自他を大切にすることを育てる。(生徒) ○部活動や生徒会活動など、課外活動への積極的な参加を促し、自主自律の精神を育てる。(1年) ○2年後半からは、生徒会執行部を立ち上げ、部活動においても集団を組織し、運営する立場に立つ。その活動の中で多様な他者と、一つの目標に粘り強く取り組む経験を積み、社会のリーダーの資質としても重要な要素となる人間性を育てる。(2年) ○取組学年として部活動や生徒会活動に積極的に取り組ませることで、情熱や粘り強さを涵養し、多様な他者と協力を促しながら自他を尊重しあう集団作りを行う。(3年) ○「我等の心得」に則り、自主自律の精神を養い、南高生としての自覚と誇りを持ち、社会に資する人材であることを自覚させる。(3年)</p>	<p>・インターハイは、個人種目でテニス、柔道、レスリング、ボクシングが計6種、JOC全国レスリング部が7名、全国高校選手権レスリング部は5名、全国高校テニス大会がレスリング部11名、国スポがテニス、ボクシング2名、全国高校1人野球大会が全国出場、ほかの全国大会はクライミング、ボクシング2名など合計39名が全国出場、全国大会選手権などで優良賞(部活動部門)、個人入選(詩部門、俳句部門)受賞、全国高総文祭には、写真・囲碁が参加、美術部はまんが甲子園出場、全国囲碁選手権と合わせて12名が出場。(生徒) ・学校祭では3000人を超える一般招待者を迎え、盛大に行うことができた。体育祭は、熱中症対策をしながら安全に開催できた。各種生徒会行事は、自主的な活動ができた。(生徒) ・行事や部活動には積極的に取り組み、自分たちの力でやろうとする姿が見えた。(1年) ・生徒会員を中心とした組織づくりと公約の実現に向けて活動した。ヘルメットの底座、生徒会行事の企画・運営など、多様な生徒たちが力を合わせて活動しようとした。(2年) ・各部の指導により東北・全国大会へ出場することができ、価値ある経験をさせていた。野球の全校応援、南高祭などの学校行事を通して他を尊重しながら全体が一つになる機会を得ることができた。(3年) ・生徒会執行部を中心に最前学年として、2年生の主力になる行動をするように努めた。しかし「我らの心得」を守らない生徒が一部のいた。(3年)</p>	<p>○熱中症対策を行いながら南高祭、クラスマッチなどの企画・運営を行い、チーム意識を向上させ「誇り」を高め、自主的、積極的な生徒会活動により責任と協調性が身についた。(生徒) ○学年会、各種委員会、生徒会報「コバルト」を通じて広報しながら自主自立の活動ができた。(生徒) ●本校の部活動方針のもと、熱心な各部顧問の指導を、より合理的、かつ効果的に取り組んでいく必要がある。(生徒) ●部活動をやめた生徒の指導。次の部活動、打ち込めるものへつなげる指導と生徒の維持指導。(1年) ●習得の維持指導。(1年) ●年度上半期、公約を実現できるように、促し、支えていく必要がある。(2年) ○運動部・文化部ともに向上心をもって部活動に取り組んだ。文化部で全国出場した新たな実績を誇ることができた。(3年) ●生徒自身で「我らの心得」を守る自主性が足りなかった。ルール(マナー)を守らせる指導(3年)</p>	<p>・登下校のマナーや部活動のボランティア活動を行っている生徒に対しての指導や広報活動を充実していく。(生徒) ・ヘルメット動画もよかつた。</p>
4	<p>生徒指導</p>	<p>⑩学校全体でいじめ防止に取り組むとともに、読書やボランティア活動を奨励し、道徳心や公共心を醸成する。</p>	<p>○図書委員研修や委員による広報活動を行い、図書館利用の促進を図るとともに、読書活動を促し公共心を育成する。(教務) ○目黒からいじめを訴えやすい学級経営や信頼関係の構築に務め、教師間での情報共有、組織的な対応を行う。また、生徒及び保護者に対していじめ防止対策の周知を図る。(生徒) ○生徒会や部活動、クラス後援、有志団体のボランティアに取り組み、地域や社会の中で交流の場を積極的に設け、事件の精神や道徳心を育む。(生徒) ○「我等の心得」に則り、自ら考え、南高生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動がとれるよう指導する。(1年) ○小論文指導や総合的な探究の時間に読書をはじめとする本への興味を喚起する機会を設け、本や対話を通じて寛容な態度を涵養し、他者に対する敬意を醸成していく。(2年)</p>	<p>図書委員による広報活動や学級文庫の設置を行い、読書の動機付けを行った。(教務) ・地元町内会と連携を図り、学校周辺の除雪に、クラス単位取り組んでいる。(生徒) ・地域でのボランティア活動を行う生徒が増えた。(生徒) ・いじめ、非行なくそう「スロウガ」を作成し、本校いじめ防止基本方針とともに生徒へ周知しながら未然防止を図ることができた。(生徒) ・授業中や集会等で時間厳守や静粛を求めの呼びかけを行う生徒が見られた。(1年) ・ボランティアを経験する生徒が大勢出てきた。(2年)</p>	<p>○図書委員は公共図書館と連携した事業を行うなど、活発に活動した。日頃の図書館利用マナーについても申し分なかった。(教務) ○2年中心でのサークルボランティア活動を行うことができた(生徒) ○いじめを察知した段階で組織的(小委員会)に対応することができた。(生徒) ○本校いじめ防止基本方針を教職員、生徒、保護者へ周知し、いじめの防止等に取り組んだ。(生徒) ●スマホや服装などは「我等の心得」の再確認。生徒同士による自治的な活動の活性化。(1年) ●夏休みや修学旅行や小学生の夏休みの課題の手伝い、山形学者会、レモネードスタディ等、のべ130人の生徒がボランティアとして参加し、さまざまな地域の方と交流し、多くを得ることができた。この経験を、自分の進路等に活かしてほしいと考えている。(2年)</p>	<p>●交通安全数は現時点で16件。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。(生徒) ●自転車・メット推進校として山形県での啓発活動や、警察と連携して啓発活動や取り組むことができた(生徒) ・不登校傾向、配慮が必要な生徒との生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、SC等連携しながら対応できた。(生徒) ・校内での活動、生徒会活動、台端への研修旅行などを通して、多様な他者とのかわりを通し、複数の視点をもちながら他者と関わる姿勢が涵養できた。(2年) ・配慮が必要な生徒に関しては、年度当初や学年担任会、教科担当等々で情報を共有した。(3年)</p>
4	<p>生徒指導</p>	<p>⑪生徒の「ウェルビーイング」の向上のため、「生徒指導提案」を踏まえた自己肯定感を高める指導をしいるとともに、生徒自身による自己管理能力の養成及び教育相談の充実による生徒の心身の健康保持に努める。</p>	<p>○「我等の心得」に則り本高生の誇りを大切に自己肯定感を高め、目標達成に向け困難にも前向きな生徒に対し、養護教諭等と協力、連携しながら生徒指導を行う。(生徒) ○オープンキャンパスへの参加や進路研究などにより生徒のキャリアを育成し、将来どのように社会に貢献したいか考えさせる。(1年) ○総合的な探究の時間や、あらゆる教育活動を通して、次のリーダーに求められるグローバルな視点とコミュニケーション能力を養う。(1年) ○他者に対する敬意を払う姿勢を涵養していく中で、お互いにウェルビーイングの向上のために、実際に動く機会を大切にし、その体験を積み上げさせる。(2年) ○生徒一人一人の「ウェルビーイング」向上のため面接週間やホームルーム活動を活用し、生徒理解と生活実態の把握に努め、意欲を持って充実した学校生活を送ることができるよう指導助言を行う。(3年) ○教育相談委員会や養護教諭、スクールカウンセラーと協力しながら、疾病を持つ生徒や学校不適応・不登校の生徒に早期に対応し、心身の健康に関する問題の解決に努める。(3年)</p>	<p>・交通安全事件数は現時点で16件。大きな事故にはなっていないが今後も0件を目指す。(生徒) ●自転車・メット推進校として山形県での啓発活動や、警察と連携して啓発活動や取り組むことができた(生徒) ・不登校傾向、配慮が必要な生徒との生徒間のトラブルに対して、担任、学年、養護教諭、SC等連携しながら対応できた。(生徒) ・校内での活動、生徒会活動、台端への研修旅行などを通して、多様な他者とのかわりを通し、複数の視点をもちながら他者と関わる姿勢が涵養できた。(2年) ・配慮が必要な生徒に関しては、年度当初や学年担任会、教科担当等々で情報を共有した。(3年)</p>	<p>○保健室にこまめに足を運びながら生徒の情報共有を図った。(生徒) ●自立的に行動する生徒ができる学年のリーダーの育成。(1年) ○多くの方々のおかげで無事に台湾に研修旅行を実施することができた。仲間内での結束も高まり、互いをリスペクトする姿勢が涵養できた。(2年) ○要支援生徒に対して保健課、教育相談委員会、SCの手厚い協力を得て、卒業を迎えることができた。各関係部門に感謝したい。(3年)</p>	<p>・自転車利用時のヘルメット着用について本校生徒の着用率を上げていく。(生徒) ・生徒会活動などを活用し、学校周辺でのよりよい交通マナーの向上を図る。(生徒)</p>

5	その他	⑬新型コロナウイルス等の感染拡大の防止や熱中症防止対策への取組みや自転車等の事故の未然防止、事故発生時における的確な対応など、安全教育・安全管理の取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に安全点検を行い、事務室と連携し、危険箇所を修繕する。(総務) ○朝のSHRで健康観察を実施し、生徒の健康状態を把握して感染拡大を未然防止する。(保健) ○熱中症防止対策として講習会や熱中症計の配布をする。(保健) ○校内外の点検等により学校事故の根絶、安全点検の徹底を図る。(保健) ○感染症や、事故の未然防止に努め、事故発生時における的確な対応など、安全教育を推進する。(1年) ○持ち物の自我管理、登下校の安全指導と自転車の運転マナーの指導を徹底する。(1年、3年) ○感染症防止に向けた取り組みを徹底して、健康管理、維持・増進に努めさせる。(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に安全点検を行い、危険箇所の修繕については、速やかに技能員に確認してもらい対応している。(総務) ・さくら連絡網による健康チェックの入力が少ないことから、今年度より健康観察簿を導入した。(保健) ・熱中症対策として、AED講習会、各部へ熱中症計の配布、1年生対象の保健指導、保健だよりの発行を行った。(保健) ・新型コロナ、インフルエンザA、Bの感染が広がり、学級閉鎖が多く出てしまった。(1年) ・登下校中の自転車の事故が多数発生してしまった。(1年) ・マスクの着用等感染症防止を徹底させることができなかった。(3年) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●設備が古くなって根本的な改修が必要な部分が増えている。(総務) ●健康観察簿の導入により、生徒の健康状態を把握することができた。(保健) ○早期の熱中症対策の実施により、大きな学校事故を防ぐことができた。(保健) ●手洗い・換気等といった基本的な感染予防行動の徹底・指導を充実させたい。(保健) ●普段からの感染対策の徹底(1年) ●自転車のルールの徹底とヘルメットの着用の徹底(1年) ●「体調不良」の名のもとに安易に欠席する生徒が目立った。欠席に対する保護者の意識(感覚)も変化してきている。(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校3年生の秋には私立へ流れる層が確定するため、中学生以下段階で南高の魅力を直接生徒に伝えるべきである。 ・SNSの継続；中学生のスマートフォンの所持率が高まり、文化祭などの情報はインスタグラム経由が主流。今の時代に合ったツールを継続して活用してほしい。 ・地域・OBとの連携；野球部の活躍などは地域の大きな話題になり、信頼に直結する。 ・LINE等を活用したOB会やPTAとの組織的な繋がりを維持しておくことは、将来の周年事業等においても大きな財産となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察簿への記入を保健委員がおこなう等、実施方法の検討をする。(保健) ・学校に登校ししっかり授業を受ける意識を持たせる。(3年)
		⑭校舎内外の清掃・美化を徹底するとともに、学習環境の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○事務室と連携を図りながら、校内諸施設・備品の整備・充実を図る。(総務) ○ゴミを持ち込まない・持ち帰る指導を徹底し、安全で清潔な環境づくりを進める。(保健) ○毎日の清掃指導と点検、清掃強調週間による徹底を図る。(保健) ○教室等の環境整備を徹底して、学習に集中できる清潔な環境づくりに努めさせる。(1年、3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室と連携を図り校内の施設・備品の整備を適宜行った。(総務) ・ゴミ捨て場でのごみの分別に、保健委員会が分別指導を行った。(保健) ・清掃強調週間におけるモップ交換、ワックスかけ等を実施した。(保健) ・担任団の指導により廊下や教室は、概おきれいに保たれている。(1年) ・備物の増設が多く、自己管理ができない生徒がいたため、教室・廊下の環境整備が一部徹底できないところがあった。(3年) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみの分別は保健委員会の分別指導により、ある程度の成果があった。(保健) ●各学年の協力を得て、教室や廊下の整理整頓を徹底する。(保健) ○自発的な行動にはなっていない。(1年) ○年間通して教室内、廊下の整理整頓を呼び掛けた。一部徹底できない時期があったが概ね良好だった。 		
		⑮積極的な情報発信と学校評価活動による開かれた学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクール・学校説明会における学校紹介を行い、入学希望者に対して適切な広報活動を行う。(教務) ○南高ブログの管理を適切に行う。(総務) ○「さくら連絡網」の活用や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にする。(1年) ○学年通信を積極的に発行し、卒業生の声、生徒たちの声、進路の情報などを保護者に向けてもらい、学校に対する理解を深める。(2年) ○学年PTA・保護者対象の講演会・学級懇談会を開催し、連携を強化する。(3年) ○「さくら連絡網」や学年通信の発行を通して生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にして共通理解を図る。(3年) ○理数科生徒の活動状況を「南高インスタ」によりタイムリーに伝えることで内外への情報発信に努める。(理数科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール、生徒・保護者対象の学校説明会、教員対象の学校説明会を行った。(教務) ・南高ブログの更新は昨年度より回数が増えたが、管理を適切に行った。(総務) ・1月末時点で学年通信を45号発行し、さくら連絡網で配信することにより、学校での生徒の様子や各種情報を保護者と共有した。(1年) ・学年通信をはじめに、学校での活動を伝えるべく努力した。保護者の声についても、学校評価アンケート、いじめアンケート、進路希望調査、また面談などを通じ、多くを聞き、学年運営等に反映させるように努めた。(2年) ・生徒の学校生活と各種情報を提供し、保護者との連携を密にするよう努めたが学年通信は年10回発行にとどまった。(3年) ・「学校案内」の中に理数科情報をコンバクトにまとめたり、学校説明会(中学生向け)では、理数科代表の生徒が本校を志望する中学生向けに直接PRできた。2年生理数科探究発表を代表1グループが行った。(理数) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○本校のアピールの場を増やすとともに丁寧な説明等により、中学生やその保護者、中学校教員の本校理解につなげることができた。(教務) ●今年度から公式のインスタでも情報を発信しており、南高ブログとの共存について検討が必要。(総務) ○担任団がきめ細い対応を努めていることが一定の効果をあげ、保護者の方々も意見を言いやすい環境を作れている。今後も進路の相談を含め、ともに協力しながら進めていきたい。(2年) ○6月にPTA役員と学年担任団との懇談会を行い情報共有を図った。また学級懇談会において保護者と担任との連携を深める貴重な時間であった。(3年) ○南高理数科の特徴や魅力を発信できた。また、生徒の研究発表はわかりやすく好評であった。(理数) ●行事のたびにタイムリーな情報発信ができなかった。(理数) 		<ul style="list-style-type: none"> ・写真掲載や通信の発行もタイムリーに行う。(理数)